

1/19

こどもたちの読書活動応援

だいしん文庫目録贈呈



市立図書館への寄附として、大田原信用金庫の橋本 忠 理事長から相馬 市長へ、寄附金50万円の目録が手渡されました。

寄附金で購入した児童書や視聴覚資料は、こどもたちが言葉を学び、感性や表現力、創造力を育み、豊かな人生を歩む力を養うことを目的に、大田原図書館内に設置された「だいしん文庫」に配架します。

1/22

全国大会ベスト16！！

～那須野ヶ原 FC 表敬訪問～



昨年12月25日から29日にかけて鹿児島県で行われた、「JFA 第49回全日本U-12サッカー選手権大会」に出場した那須野ヶ原FCが市長を表敬訪問しました。

今大会初出場の那須野ヶ原FCは、一次ラウンドを突破し決勝ラウンドに進出。1回戦では優勝候補のチームに惜しくも敗れましたが、全国ベスト16という堂々の成績を収めました。

1/22

日頃の備えで文化財を守る

文化財防火デーに係る消防訓練



「文化財防火デー」と定められている1月26日は、法隆寺金堂壁画が焼損した日(昭和24年)に当たります。

那須地区消防組合では、1月22日から1月26日にかけて宝寿院ほか市内寺社、文化施設において防火訓練や消防設備の点検を行いました。日頃から文化財の防火に対する意識を高め、文化財を愛護する活動にご協力願います。

1/25

抽選会で本年の運試し

黒羽大花市



大田原市の新春恒例行事である「黒羽大花市」が開催されました。

約400mにわたる会場内には、飲食などを含め約90店の露店が立ち並び、「本年の運だめし」として豪華景品が当たる抽選会も行われました。会場は、縁起物を買って求める人々や買い物を楽しむ人々で賑わいました。

1/26

チャリティコンペで事業を応援

高校生交流事業寄附贈呈



12月に市の高校生交流事業の趣旨にご賛同いただいたニュー・セントアンドリュースゴルフクラブ・ジャパン(NSAJ)実行委員会による、第2回応援チャリティゴルフコンペが開催され、119名が参加しました。

昨年を上回る総額22万7,740円の寄附が寄せられ、実行委員会構成倶楽部代表の朝海 正裕氏から市へ贈呈されました。

1/27

高等教育の充実のために

株式会社京都科学からの寄附



医療教育用教材の開発、製造販売などを手がける株式会社京都科学(京都市)から企業版ふるさと納税による寄附をいただきました。

いただいた寄附は、企業版ふるさと納税を財源とする「大学等支援事業補助金」を通し、国際医療福祉大学の全天候型グラウンドの整備事業に活用されます。



『残響』

投稿者：りびあん
撮影場所：那須野が原
ハーモニーホール

ピアノコンサートの余韻に包まれながらの帰り道。硝子の壁に映る夕景が美しかったので。



『みんなのひろば』投稿募集

☎ 6階 ☎ 0287-23-8700
✉ johhou@city.ohatawara.tochigi.jp

●応募方法

Eメールに写真を添付し、本文に次の①～⑥を記入して情報政策課にお送りください。

①コーナー名

- ・我が家の『○○』(家族や自慢のレシピなどの紹介)
- ・いいとこ撮り(市内の風景・イベント写真の紹介)
- ・大田笑人(市内で活躍する個人・団体の紹介)

②写真のタイトル

③コメント(200文字程度)

④氏名とペンネーム(本名掲載を希望の場合は不要)

⑤住所(番地も記入。紙面には大字のみ掲載します。)

⑥電話番号

●注意事項

*原則として受付順に掲載しますが、応募多数の場合は過去に一度も掲載されていない方を優先します。

*掲載回数の上限は1人につき月1回かつ同一年度内3回までとし、2号連続しての掲載は行いません。

*掲載された場合の謝礼はありません。



詳細は市HPをご覧ください

「明治のナイチンゲール」大関和をたどる 〇〇文化振興課 ☎4階 ☎0287-23-3135

第6回 大関和の功績

大関和は、日本で最も早い時期に正規の訓練を受けた看護師「トレインドナース」の1人として、正しい知識と技術をもって多くの傷病人に寄り添い、献身的な看護を行いました。今回は和が生涯をとおして取り組んだ働きについて紹介します。

まずは、看護技術の向上や後輩看護師の育成です。新潟県高田(現、新潟県上越市)の知命堂病院では、看護師として働くだけでなく産婆看護婦養成所で講師を務めました。東京に戻ってからも、東京看護婦会講習所の講師に就任し、明治42年(1909)には自身で大関看護婦講習所も開講しました。正しい知識と技術、加えて自身の経験を伝え、後輩を育成したのです。

次に、感染症対策と公衆衛生の普及です。当時、たびたび流行したコレラや赤痢などの感染症は、多くの人々の命を奪う恐ろしい病気でした。和は看護学校で学んだナイチンゲール方式にもとづき、排泄物の正しい処理、丁寧な清掃と換気、患者の身体や衣服を清潔にすることを徹底し、大きな効果をあげました。女子学院(前身のひとつが桜井女学校)が昭和3年(1928)に出版した『女子学院五十年史及学窓回想録』掲載の手記の中でも、群馬県や埼玉県でそれぞれ100人程の赤痢患者を看護し、死者を5~6人に抑えたと振り返っています。

最後に、看護師の仕事やその存在の重要性の普及活動に尽力したことです。明治32年(1899)に『派出看護婦心得』を、同41年(1908)に『実地看護法』を刊行するなど、著書の刊行や雑誌への寄稿を通して、看護の重要性や意義、実践方法、看護師としての心得について普及啓発を図りました。

以上のように、和は日本の近代看護の先駆者として多くの功績を残しました。そんな和の生涯や活躍について、時代背景や彼女を取り巻く人物と共に紹介する展示会「近代看護の先駆者・明治のナイチンゲール 大関和」が、3月14日(土)から那須与一伝承館で開催されます。ぜひご来場ください。

晩年の大関和 (知命堂病院提供) ▶

